県立５病院の機能等に関する方針（素案）概要版

県立病院を取り巻く状況

◆　昨今の人口減少や少子高齢化の進展に伴い、「医療従事者の不足」、「医療・介護の複合的なニーズを持つ高齢者の増加」、「科学技術の更なる進歩」など、医療を取り巻く状況は大きく変化している。
◆　また、物価や賃金の急激な高騰により、経営環境も急激に変化している。
◆　県立病院機構が運営する県立５病院は、がん医療や小児・周産期医療など高度専門的な医療の提供や、結核医療など民間病院だけでは困難な政策的医療を担っている。

◆　今後も県立病院が、県民のいのちを守る最後の砦として、 医療需要の変化に対応した医療提供を行うために、各病院に必要な機能等を見直す必要がある。

「県立病院機能のあり方検討会」

◆　地方独立行政法人神奈川県立病院機構が運営する県立５病院の、今後担うべき役割や機能等について、専門的知見をもった委員による検討を行った。

≪　検討会報告書　QRコード　≫
（県HPにリンクします）

◆　検討会の意見を踏まえ、県立５病院の機能等の今後の方針を定めるとした。



県立５病院の機能等に関する方針（素案）概要版

県立5病院の今後の方向性

足柄上病院

- **県西地域の中核的な病院**として、小田原市立総合医療センターと連携しながら、地域のニーズに応じた医療を提供する。
- 今後ニーズの高まる高齢者医療、特に、**回復期医療、高齢者救急や在宅療養支援を強化**する。
- 病床稼働率及び今後の医療需要を踏まえ、**病床数を200床程度に見直すとともに、必要な医療機能は既存棟（１号館・３号館）で対応し、2号館の新設は行わない。**
- 既存棟については、**患者の療養環境や職員の労働環境向上のための改修を計画的に実施**するとともに、その築年数（１号館築37年、３号館築25年）を考慮し、社会情勢や医療を取り巻く環境を注視しながら、高齢化がピークを迎える2040年を見据え、**建替えも含めた施設整備について検討を継続**する。

循環器呼吸器病センター

- 県立病院として、他の医療機関では担うことが難しい**「難治性呼吸器疾患」及び政策医療である「結核」の医療提供を継続する**が、その他の医療は**計画的に縮小し、最終的には終了する。**
- 「難治性呼吸器疾患」及び「結核」の医療機能は、**令和12年度からの第五期中期目標期間中の早い時期に、がんセンターへの機能移転・統合を行った上で、現在の病院施設での医療提供を終了する**方向で検討する。

がんセンター

- 都道府県がん診療連携拠点病院として、がん治療や研究等で**県内のがん治療をリードする役割を継続する**とともに、**高齢がん患者の併存疾患・合併症に対応する診療体制の整備**について検討する。
- 重粒子線治療施設について、中長期的な視点であり方を検討する。

こども医療センター

- **小児の高度専門病院**としての役割を継続するとともに、成人期移行の支援を充実させていく。

精神医療センター

- **精神科の高度専門病院**としての役割を継続するとともに、民間の精神科病院で対応困難な患者等の一層の受入れに取り組む。